

普及項目	養殖
漁業種類等	藻類養殖
対象魚類	ヒトエグサ
対象海域	天草有明海、八代海、天草西海

ヒトエグサ養殖の現地指導について

天草広域本部水産課・吉村 直晃

【背景・目的】

天草広域本部管内では、天草市新和町地区、同市河浦町宮野河内地区等でヒトエグサ養殖が行われている。

平成 30 年度は、苓北、五和、新和、宮野河内地区の養殖状況を把握し、生育異常等があった場合には解決策を指導して、安定生産につなげることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 採苗・育苗期

9月中旬から12月上旬

9月中旬の採苗開始後、10月上旬に行った芽付き検鏡の際、苓北地区の人工採苗網の一部及び天然採苗網、五和地区の人工採苗網で、芽の退色（写真1）などの生育不良を確認した。その原因として干出過多による芽傷みが考えられたため、網の設置されている高さを下げるよう指導した。

その後、11月上旬には芽が肉眼視されたが、生育不良を確認した網では12月上旬でも例年より芽数が少なく、苓北地区ではノリの混在が目立った（写真2）。

他地区の人工採苗網及び五和地区の天然採苗網は順調に生育し、12月上旬には密生状態となった。

12月下旬

新和地区を中心にドタグサレ病が発生した（写真3）。現場では、網洗いによる病変部の除去が行われ、葉長が短くなった（写真4）。当水産課からは、網の高さを調整して5時間程度の干出を与えること、早めの摘採により病変部を除去することを指導した。

(2) 摘採・加工

熊本県産の乾燥品は分厚く（写真5）、異物混入のリスクが高いことから、「薄作り」に取り組むよう指導した。

【成果・活用】

採苗後の生育不良及びドタグサレ病への対策は、現場水温及び気象データの解析により原因を特定し、網の管理方法を再検討する。

「薄作り」を指導した結果、新和の漁業者3名が三重県産と同程度の厚みの製品づくりを開始しているため（写真6）、本取組みが熊本県全体に拡大するよう指導を継続する。

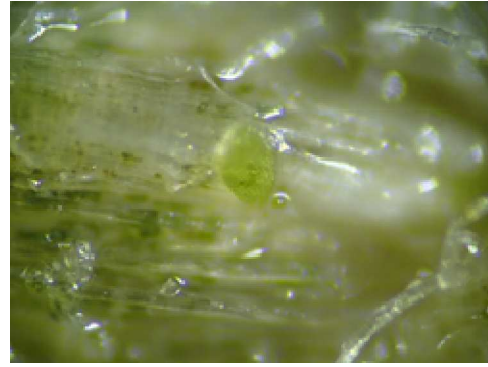
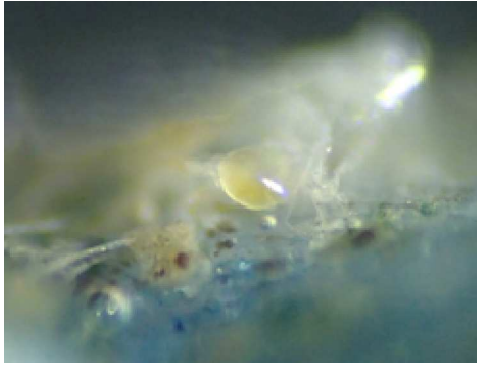


写真1 退色したヒトエグサの芽(左)と通常の芽(右)(10月10日・苓北)



写真2 ノリの混在(苓北)



写真3 ドタグサレ病の発生(新和)



写真4 網洗いにより葉長が短く一部芽が欠損(新和)



写真5 熊本県産の大部分は厚みが3cm程度

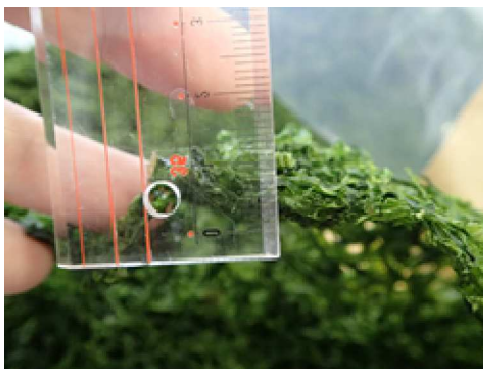


写真6 3業者が三重県産と同程度の厚みの製品づくりを開始(新和)